

大分都市圏総合都市交通計画協議会 第3回委員会



大分都市圏総合都市交通計画協議会事務局

平成25年2月14日

目 次

1. これまでの決定事項等について

- (1) 調査全体スケジュール
- (2) 決定事項等の概要
- (3) ゾーンの設定

2. パーソントリップ調査について

- (1) 調査方法の検討 ≪論点:回収率の想定、調査日の設定≫
- (2) 調査票の検討 ≪論点:本体調査票、付帯調査票の構成≫

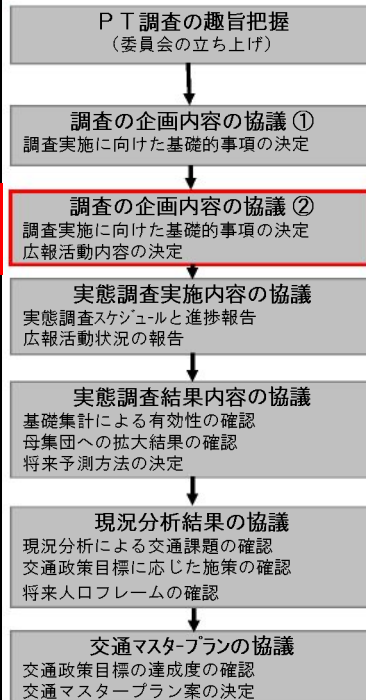
3. 広報体系について

- (1) 広報体系の検討 ≪論点:効果的な広報のあり方≫
- (2) 広報ツールのイメージ

1. これまでの決定事項等について

(1) 協議会全体スケジュール

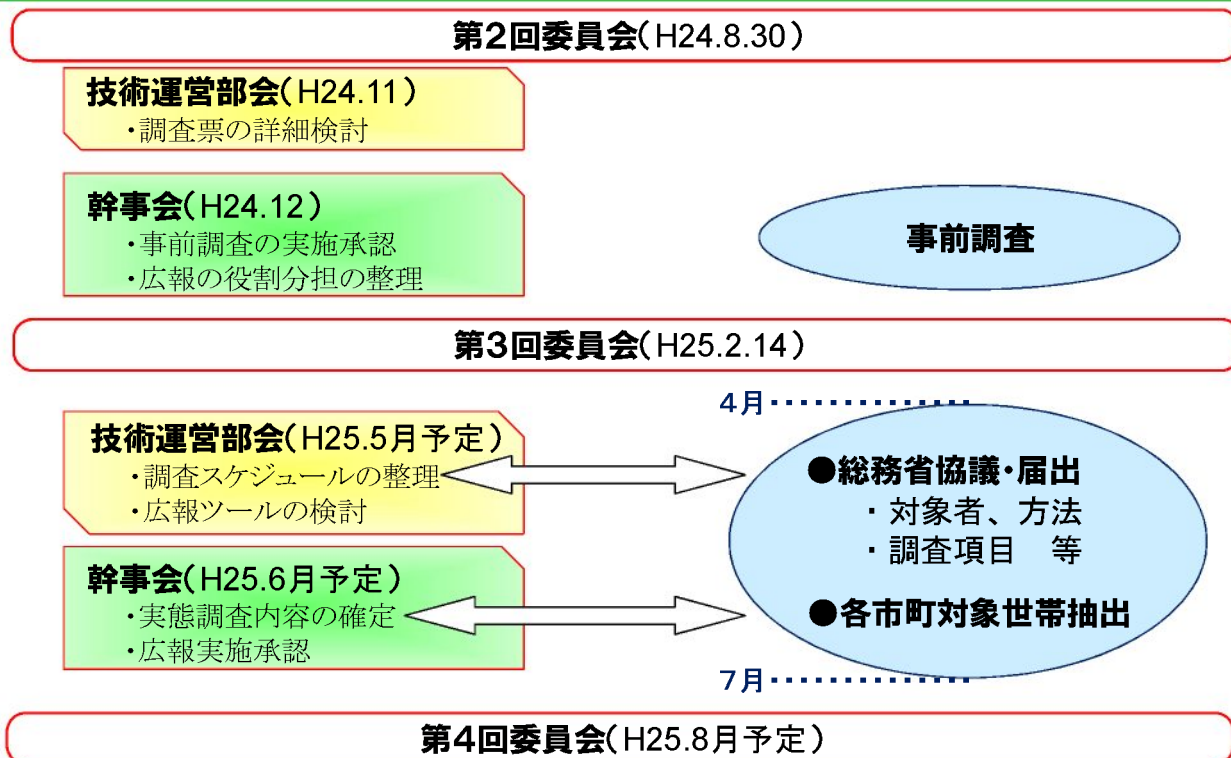
委員会	開催時期	議事内容（予定）
第1回	H24年5月18日 (実施済)	・PT調査の目的 ・全体スケジュール ・大分都市圏都市交通戦略の概要説明
第2回	H24年8月30日 (実施済)	・調査対象圏域の設定 ・調査方法の検討 ・調査体系と内容の検討（本体・付帯・補完調査）
第3回	H25年2月14日 (本日)	・調査方法の検討 ・調査票の検討 ・広報体系
第4回	H25年8月予定	・準備進捗報告 ・実態調査スケジュール ・広報スケジュール ・将来フレームの検討
第5回	H26年3月予定	・実態調査報告 ・予測手法、評価手法 ・基礎集計
第6回	H26年9月予定	・現況分析 ・個別計画、施策立案 ・交通課題 ・将来フレームの設定
第7回	H27年3月予定	・将来推計 ・交通マスタープランの立案 ・交通政策案の評価



2

(1) 協議会全体スケジュール

① 第2回協議会(H24.8)から第4回協議会(H25.8)までの流れ



3

(2) 決定事項等の概要

① 決定事項の整理

- 調査対象圏域：
大分市への通勤通学依存率が10%以上の自治体
⇒大分市、別府市、臼杵市、豊後大野市、由布市、日出町

- 対象圏域世帯：305,332世帯
" 人口：743,323人 (H22国勢調査)

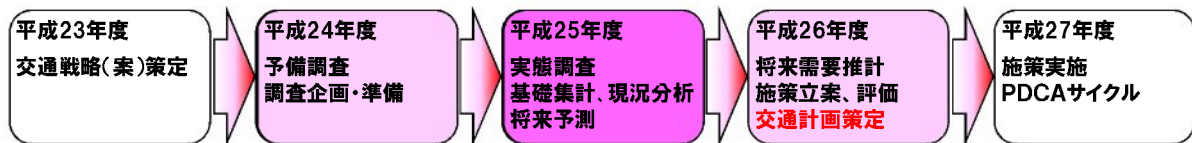
- 目標有効回収数：(世帯票)27,480票
(個人票)63,540票
【抽出率：9%】

- 調査体系
 - ・ 本体調査 (世帯票、個人票)
 - ・ 付帯調査 (公共交通利用促進、交通環境改善ニーズ等)
 - ・ 補完調査 (スクリーンライン、コードンライン)



▲第2回パーソントリップ調査の調査対象圏域

● 全体スケジュール



4

(2) 決定事項等の概要

② 第2回委員会(H24.8.30開催)での保留事項

項目	内容	今回の委員会での対応
【確認・今回報告】 調査対象圏域	ゾーニングに際して、H17道路交通センサスBゾーンとの整合性を確認すること	ゾーンの設定について整理 (7~11ページに記載)
【保留・今回協議】 調査方法	下記の理由から 「郵送方式特典付与あり」の方針を了承 ①コスト面の優位性 ②配布票数の抑制 ③回答精度の向上 但し、(1)「各種法令への適合」 (2)「回収率設定の根拠」 (3)「国庫補助に関する取り扱い」 を確認し、第3回委員会に諮ること	統計調査における特典付与が、各種法令に抵触していないことを同様の調査を実施している「総務省 情報経済通信室」に確認 (12ページに記載) 回収率については、事前調査の結果から設定 (16~18ページに記載) 国庫補助については、特典付与の「合理性」を整理するため、事前調査を実施し、コスト面を整理
【保留・今回協議】 調査体系と内容	調査体系と内容の方向性は了承 調査票の具体は第3回委員会にて協議 付帯調査票で「コミュニティバス」に関する設問を検討すること 少子高齢化対策につながる、生活交通確保の観点での設問を検討すること	本体調査票・付帯調査票(案)を整理 (23~27ページ及び資料4、5で提示) コミュニティバスについては、公共交通空白地域在住者に対して、別途コミュニティバスの利用意向に関する調査を検討 高齢者および高校生に対して、別途利用ニーズに関する調査を検討

5

(2) 決定事項等の概要

③ 幹事会(H24.12.21開催)及び技術運営部会(H24.11.28開催)での意見

項目	意見	対応
本体調査票	世帯票及び個人票について、より書きやすいように再整理を行うこと（九州地整 都市・住宅整備課）	事前調査で収集した「書きづらい」、「記入しづらい」部分に関する意見を反映し、修正済（23～27ページ及び資料4、5で提示）
付帯調査票	配布数（サンプル数）は確保できているか（大分市都市計画課）	付帯調査票の再整理を行い、設問数を減少 調査票の分割は行わないことから、 本体調査と同様のサンプルを確保
事前調査	調査対象数の想定は（大分市都市計画課）	合計で約400票の回収を予定 （実績値として500票余りを回収）
	配布回収方法は（大分商工会議所）	協議会担当部署で集約後、事務局が回収
広報体系	広報に関しては、調査の趣旨から全面的に協力する 詳細については、今後協議してもらいたい （大分バス、大分交通、JR九州）	委員会にて、調査方法等の決定後、 詳細な協議を実施する予定
	調査実施前に自治会区長へ事前説明を実施したい （大分市都市計画課）	説明会開催を広報計画に反映
	広報のリーフレットにボリューム感を記載しては （大分商工会議所）	文面のみでは説明しにくいこと、他都市事例でもボ リュームなどについて記載していないことを考慮し、 調査票の量に関する記載は行わない

6

(3) ゾーンの設定

① 区分概要

- ゾーン設定において、データ分析上必要な精度を持った基本単位を「Cゾーン」（解析ゾーン）として設定
- 抽出率設定については、都市交通体系の骨格的な計画課題への対応が可能なゾーン区分であるCゾーン数を用いて算定

▼ ゾーン区分の概要

ゾーン区分		ゾーン設定の基本概念
大ゾーン	A	大分都市圏の人口及び交通の流動等を大局的に把握するために設定 圏域全体の交通需要特性を概括的把握することに資するもので、行政区を適宜集約
中ゾーン	B	道路交通センサスゾーンとの整合等により、都市圏内及び内外交通などの基本的な交通流動について把握するために設定
解析ゾーン	C	本調査の拡大、解析、予測及び計画等の基本とするゾーンであり、都市交通体系の骨格的な計画課題への対応が可能なゾーン区分
小ゾーン	D	歩行者・二輪車、中心市街地等の交通計画の参考とするために設定

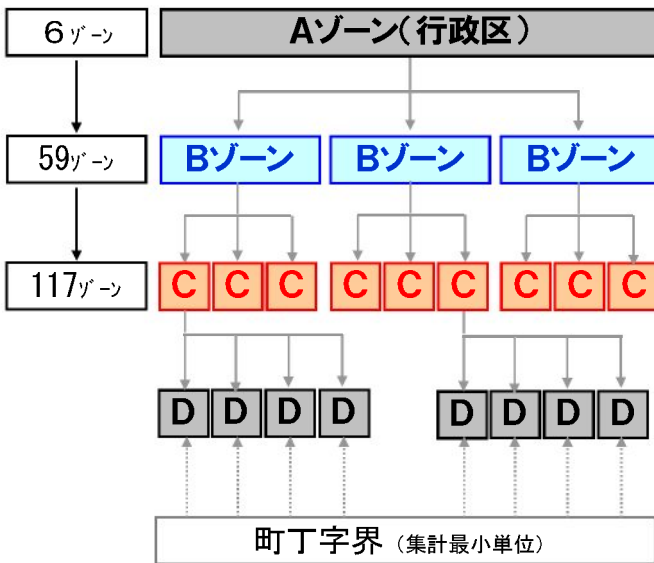
※Dゾーンは、より詳細な地区交通計画検討時に必要に応じて設定

7

(3)ゾーンの設定

②階層イメージ

●Bゾーンをベースとし、町丁字界を集約してCゾーンを設定



(3)ゾーンの設定

③Cゾーンの設定手順

●町丁字界を最小単位として、鉄道駅や幹線道路、地形等に留意して設定

Bゾーン(道路交通センサス)
を分割してCゾーンを設定する

(設定手順:考慮事項)

- ・町丁字界(最小単位として考慮)
- ・鉄道駅(1ゾーン1駅)
- ・幹線道路(幹線道路へのアクセス確保)
- ・地形的分断(河川・山地)
- ・人口(1万人前後※) など

※都市圏人口74万人/117ゾーン(Cゾーン)

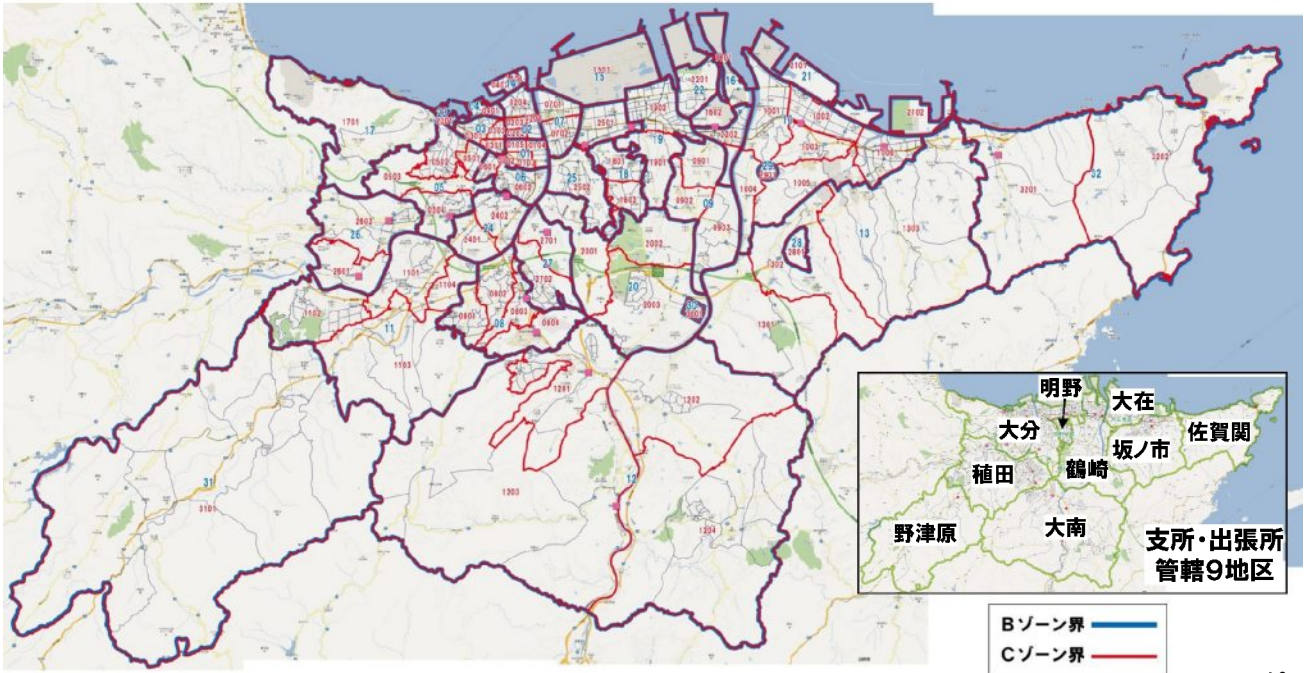


各市町ゾーン数	大分市	別府市	臼杵市	豊後大野市	由布市	日出町	合計
中ゾーン(Bゾーン)	32	13	3	7	3	1	59
解析ゾーン(Cゾーン)	77	26	3	7	3	1	117

(3)ゾーンの設定

④Cゾーンの設定:大分市(77ゾーン)

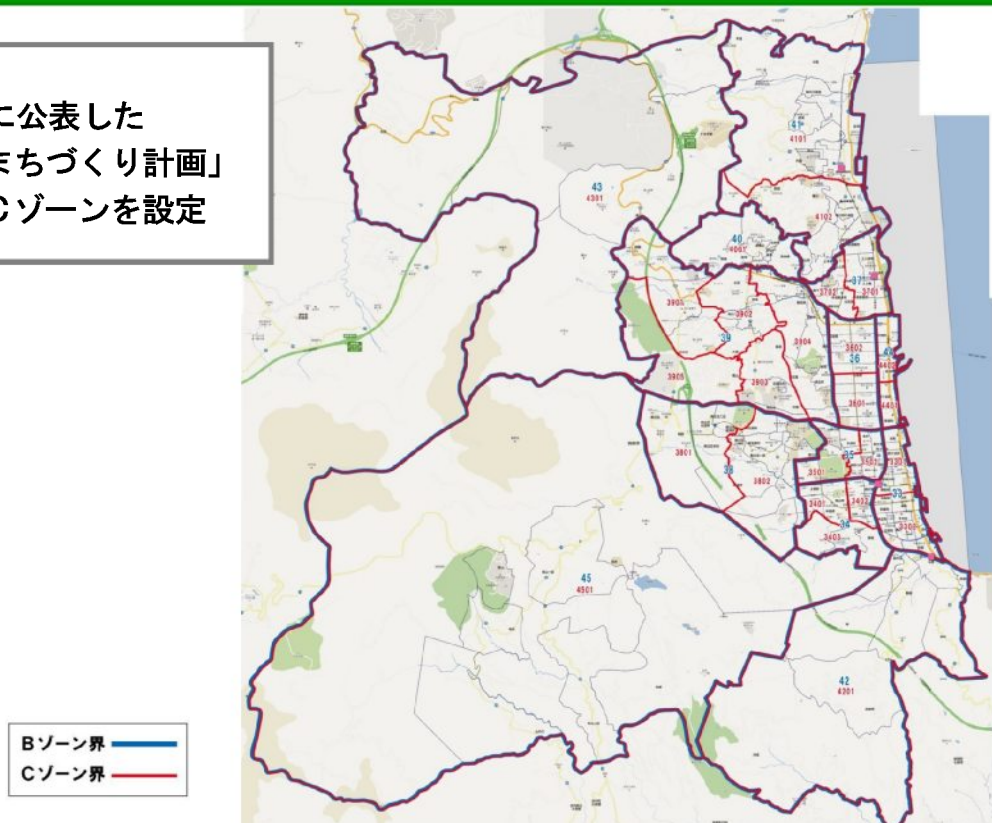
●大分市は、平成23年に策定された「大分市都市計画マスタープラン」において、地区別構想を定めている9つの地区ごとでの検討が可能となるCゾーンを設定



(3)ゾーンの設定

④Cゾーンの設定:別府市(26ゾーン)

●別府市は、平成14年度に公表した「別府市交通まちづくり計画」を考慮したCゾーンを設定



(1) 調査方法の検討

③ 事前調査の対象者

● 様々な視点から調査票の理解度を確認するため、下記の対象者に協力を依頼

- ・ 高齢者
- ・ 協議会メンバーの交通事業者 および 大分商工会議所加盟の企業
- ・ 大分県および大分市職員
- ・ 大分市内の高校生

高齢者

- ・ 高齢者団体関係者
 - ・ 高齢者施設入所者 等
- 上記合計 70 名程度

交通事業者

- ・ 大分バス・大分交通 (各社20名、40名程度)
 - ・ JR九州大分支社 (10名程度)
 - ・ NEXCO西日本大分高速道路事務所 (5名程度)
 - ・ 大分県タクシー協会 (5名程度)
- 上記合計 60 名程度

大分県および大分市職員

県市それぞれ：150名程度
合計 300 名程度

商工会議所 (加盟企業)

合計 100 名程度

調査票の理解度確認・回収率の根拠

合計 530 名程度に調査協力を依頼
(400 名程度からの回収を想定)

高校生

大分市内で 3 校程度、各校 1 クラスを想定
120 名程度

調査票の理解度確認

※ 次年度、高校生への公共交通ニーズ調査を検討中

14

(1) 調査方法の検討

● 事前調査用のアンケート

大分都市圏パーソントリップ調査 (事前調査) の調査票に関するアンケート

パーソントリップ調査は、どのような人が、どのような目的で、どのような交通手段を利用して移動したかなど、ある人の平日 1 日の動きを調査するものです。調査結果は、将来のまちづくりや交通計画、防災対策の立案など、幅広い分野で役立てられています。大分都市圏では、昭和 58 年に第 1 回調査が実施されていますが、平成 25 年秋に約 30 年ぶり 2 回目の調査を予定しております。
皆様には、調査票に関するいくつかの質問に対して率直なご感想をお答え頂き、調査票の改善や郵送調査の場合の回収率向上のヒントにさせていただきますと考えております。
ご多忙な折、大変お手数をかけますが、何とぞご協力の程よろしくお願いたします。

【世帯票のご記入はどれくらい時間を要しましたか：約 〇〇 分】

世帯票の記入方法がわかりにくかった設問や内容が理解できなかった設問などがございましたら、該当する設問項目全てに○をつけてください。

①世帯の人数	1) 世帯の人数
②郵便番号・現住所	1) 郵便番号・現住所
③世帯構成	1) 職業 2) 就業形態 3) 運転免許 4) 勤務先などの所在地 5) 外出困難の有無・理由
④世帯で所有する自動車や二輪車	1) 車種分類 2) 自動車のタイプ 3) 主な運転者 4) 調査日の自動車の使用状況
⑤住居	1) 住居形態 2) 住所の所有形態 3) 居住年数 4) 住居を選んだ理由 5) 都心部への転居意向

特にわかりにくかった・理解できなかった理由もしくは調査票の改善点があれば教えてください。

【個人票 1 枚のご記入はどれくらい時間を要しましたか：約 〇〇 分】

個人票の記入方法がわかりにくかった設問や内容が理解できなかった設問などがございましたら、該当する設問項目全てに○をつけてください。

ステップ① 外出の有無	1) 世帯構成人員(回答者は何人目) 2) 調査日の外出の有無
ステップ② 調査日に移動した場所	1) 施設の種類 2) 施設の住所 3) 施設名 4) 目的の分類
ステップ③ 調査日の移動の詳細	1) 出発時刻・到着時刻 2) 移動手段 3) 移動時間 4) 移動の詳細・乗換え地点 5) 乗車した車、運転者、乗車人員

特にわかりにくかった・理解できなかった理由もしくは調査票の改善点があれば教えてください。

【付帯調査票のご記入はどれくらい時間を要しましたか：約 〇〇 分】

付帯調査票の記入方法がわかりにくかった設問や内容が理解できなかった設問などがございましたら、該当する設問項目全てに○をつけてください。

問 1 自動車の利用	1) 自動車を利用する理由 2) 交通手段変更の可能性 3) 代替交通手段
問 2 公共交通機関利用	1) 最寄駅と最寄バス停 2) 鉄道、路線バス等の課題 3) 最寄駅の改善ニーズ 4) 最寄バス停の改善ニーズ
問 3 歩道・自転車空間	1) 徒歩移動の許容距離 2) 歩道の改善ニーズ 3) 自転車走行空間の改善ニーズ
問 4 高速バスの利用	1) 高速バスの利用頻度・利用方面 2) 高速バスの改善ニーズ
問 5 休日の行動・交通環境改善	1) よく行く地区 2) 地区への外出頻度 3) 地区への交通手段 4) 来訪地区への交通環境改善ニーズ 5) 地区内の交通環境改善ニーズ
問 6 大分駅周辺地区	1) 大分駅周辺地区への交通手段 2) 来訪施設 3) 交通施設利用条件 4) 文化施設の利用状況
問 7 災害時の行動	1) 連絡方法 2) 帰宅意思 3) 待機場所 4) 指定避難場所の周知
問 8 ワンコインバス	1) 利用状況 2) 改善ニーズ 3) 利用しない理由 4) その他自由意見
問 9 ふれあい交通	1) 制度の認知 2) 改善ニーズ 3) 利用しない理由 4) 制度を知らなかった人に対する利用意向
問 10 公共交通機関での移動中の行動	1) 移動中の行動形態 2) 移動中の携帯電話の利用用途

【大分都市圏パーソントリップ調査の調査協力意向について】

大分都市圏パーソントリップ調査(本調査)では、調査の精度向上やコスト縮減に向けて、ご回答いただいた方を対象に粗品を贈らせていただくことを検討しております。【送付のために住所、氏名、電話番号等の記載が必要】

本調査は、事前調査と異なり、下記の内容になります。
・世帯票：世帯ごとに1枚作成(5歳以上の世帯構成人員が7人以上の場合は2枚)
・個人票：5歳以上の世帯構成員ごとに1式作成
・付帯調査票：世帯ごとに1式作成(質問項目を絞り、A3で3ページ程度を想定)

あなたは本調査の対象者に選ばれた場合、調査にご協力していただけませんか？

次の 7 ケースのうち、あなたが調査に協力してもよいと思われたもの 1 つに○をつけてください。

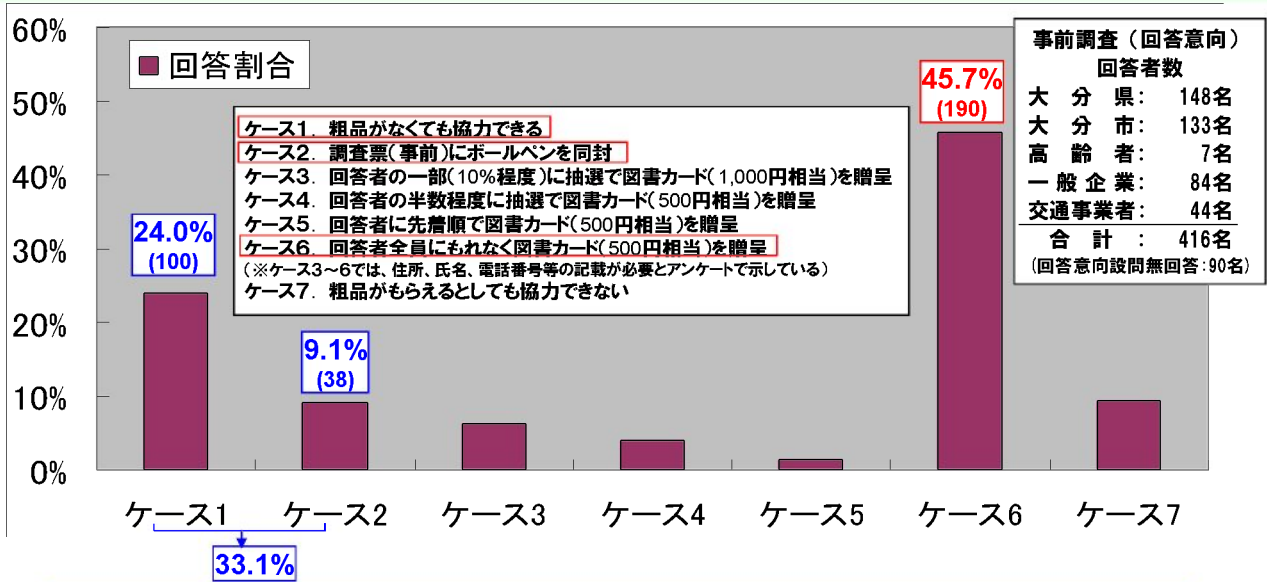
- ケース1 粗品がなくても協力できる
 - ケース2 調査票(事前)にボールペンを同封
 - ケース3 回答者の一部に抽選で図書カード(1,000円相当)を贈呈
 - ケース4 回答者の半数程度に抽選で図書カード(500円相当)を贈呈
 - ケース5 回答者に先着順で図書カード(500円相当)を贈呈
 - ケース6 回答者全員にもれなく図書カード(500円相当)を贈呈
 - ケース7 粗品がもらえるとしても協力できない
- 住所、氏名、電話番号等の記載が必要

～事前調査にご協力いただきまして、ありがとうございます～

15

(1) 調査方法の検討

④ 事前調査(回答意向)の結果【速報値】



事前調査(回答意向)の集計結果

ケース6を求める回答者が卓越し、次いでケース1、ケース2
 この3つのケースについて、総合評価を実施

⇒コスト算出に係る回収率の設定は、各ケースにおける回答割合を利用

【ケース2(事前付与)については、他県事例からケース1の割合を加算】

(1) 調査方法の検討

⑤ ケース別の総合評価

- 評価のポイントに従い、調査方法の総合評価を実施
 コストが最も安くその他の項目も比較的優位な
 「回答者全員に特典付与(ケース6)」を最良案として選定

▼ 総合評価の比較表

		ケース1 (郵送, 特典無)	ケース2 (郵送, 特典事前付与)	ケース6 (郵送, 回答者全員に特典付与)	参考 (訪問, 特典無)
評価項目 調査コストに含まれる	調査コスト(万円) (最安値比)	6,901 (1.04)	7,004 (1.05)	6,639 (1.00)	7,084 (1.07)
	有効回収率 配布必要票数 (世帯数ベース)	19.2% (=24.0%×0.8) 143,125	26.5% (=33.1%×0.8) 103,776	41.1% (=45.7%×0.9) 66,812	ほぼ100% 27,480
	調査に関する世帯の割合※②	46.9%	34.0%	21.9%	ほぼ9%
評価項目 調査コスト以外の	調査期間 (配布~回収~集計)	所要期間が短い ○			所要期間が長い △
	高齢者世帯へのフォロー(調査票回収時)※③	回答者発信時のみ フォロー可能 △	回答者発信時のみ フォロー可能 △	電話によるフォローが回答者・事務局双方から発信可能 ○	訪問時に フォロー可能 ◎
	クレーム対応の多さ(接触可能性)	接触は 最も少ない ◎	接触は 最も少ない ◎	回答内容の確認時に 接触が発生 ○	訪問時に 必ず接触 ×

※①: 調査コストは、目標回収世帯票数を満たすために必要な直接経費を算出

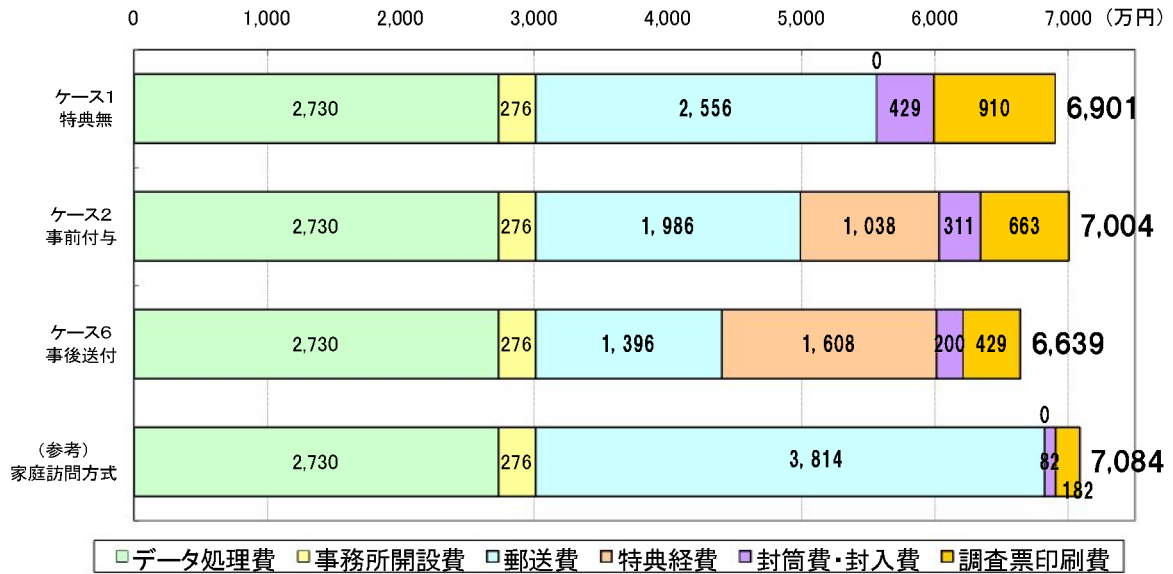
※②: 配布必要票数 = 対象圏域全世帯数(305,332世帯)

※③: 調査対象者側からの質問や意見、苦情等を受ける電話窓口を開設

(1) 調査方法の検討

⑥ ケース別のコスト(直接経費)の詳細

● ケース別の実態調査経費を算出した結果、特典無しおよび事前付与のケースと比べ、事後特典の付与がコスト削減に寄与することを確認



※ 家庭訪問方式における「郵送費」は、調査員報酬等に係る経費を計上
 ※ データ処理費と事務所開設費は、調査方法によるコストの変動なし

(1) 調査方法の検討

⑦ 実態調査の調査方法(案)

事前調査の結果

アンケートにより、特典付与の必要性を確認

- ・ 有効回収率は、アンケート結果から41.1%(=45.7%×0.9)であり、総務省の実績値に近似
- ・ 国庫補助については、コスト面の優位性等から『合理性』を整理

国土交通省 都市計画調査室との協議結果

「有効回収率『40%超』は多少のリスクを感じるものの、事前調査により根拠資料が整理されていることから、特典付与の有無については、補助金交付上の支障にはならない」

平成25年度の実態調査の調査方法として、『郵送方式・特典(図書カード500円相当)付与』を提案
 有効回収率については、リスクも考慮し、『40%』に設定
 【有効回収率40%時の調査コスト(直接経費)：6,690万円】

(1) 調査方法の検討

⑧ 郵送配布の方法について

●他都市圏の調査票の配布方法は、「一斉配布方式」または「分割配布方式」

【他都市事例】

一斉配布方式：福島PT（H22）、高知PT（H19）

分割配布方式：熊本PT（H24）、高松PT（H24）

【郵送配布方法の比較】

配布方法	メリット	デメリット	備考
一斉配布 ・配布全数を一斉に配布	・一連の配布回収で済むことから、回収終了までの期間が短い	・配布数の調整ができないため、回収目標に対して、過多または過少の状況が発生しやすい	・福島PT(H22)では回収過多となり、調査コストが増加 ・高知PT(H19)では回収過少となり、追加調査を実施
分割配布 ・数回に分けて配布	・数回に分けて配布するため、先発ロットの回収状況をみながら、後発ロット配布数の調整が可能	・複数回に分けて配布することから、回収終了までの期間が長い	・熊本PT(H24)では3回、高松PT(H24)では4回に分けて実施

先発ロットの回収状況をみながら配布数の調整が可能となり、回収率やコスト面でのリスクを抑制できる「分割配布方式」が優位

20

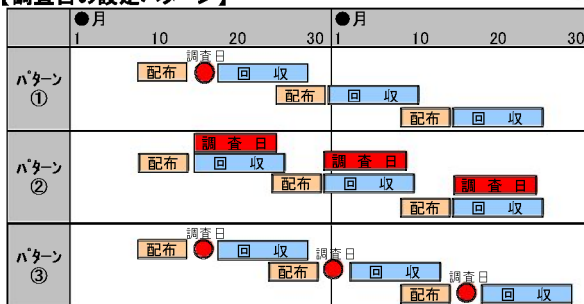
(1) 調査方法の検討

⑨ 調査日の設定について

●「分割配布方式」を前提とした場合、「調査日」は下の3パターンを想定

	調査日	メリット	デメリット
パターン①	特定の1日 ・配布全世帯が同じ調査日に記入	・条件が統一されたデータ取得が可能	・後発ロットは配布と調査日の間隔が開くため、データ精度の低下が懸念 ・調査日が異常気象や事故により、特異なデータとなるリスク有
パターン②	一定期間から選択 ・指定した期間内から、調査対象者が任意の記入日を設定	・異常気象や事故による特異データ発生リスクが低減 ・記入日が任意であるため、調査対象者の回答負担が軽減	・調査日の選択に調査対象者の意思が働くことから、外出率などで調査データの信頼度が低下
パターン③	配布日に合わせて調査日を設定 ・配布日に近い日を、調査日として指定	・配布日と調査日が近い場合、比較的高い精度のデータが確保可能 ・異常気象や事故による特異データ発生リスクが低減	・調査日が複数であるため、前提条件が異なるデータとなる

【調査日の設定パターン】



パターン③が

・回収率の向上
・データ精度、信頼性の確保
・特異データ発生リスクの低減
といった点で他案より優位

今後、調査時期、分割数、配布割合等の詳細を整理

21

(2) 調査票の検討

③付帯調査票

【交通環境改善ニーズ】:問2～問4

事前調査における主な修正要望と対応

●2)は鉄道と路線バスを分割するほうが良いのでは
⇒鉄道と路線バス、それぞれの課題を明らかにするため、設問を分割

The image shows a survey form with several sections. Red dashed boxes highlight specific questions and their corresponding options. Green boxes highlight other sections of the form. The questions are in Japanese and relate to transportation needs and survey methodology.

●設問の目的

- ・公共交通、交通結節点、歩行者自転車空間に対する改善ニーズを把握
- ・長距離移動手段(高速バス)の利用意向

●施策イメージ

- ・バスレーンの設置や見直し
- ・歩行者・自転車利用空間の創出
- ・パーク&高速バスライドの整備 など

(2) 調査票の検討

③付帯調査票

【休日行動調査】:問5

事前調査における主な修正要望と対応

●最も訪れる地区と改善要望地区が異なる場合は、どう書けば良いか

⇒今回は、回答者が最もイメージしやすいように、日常「最も訪れる地区」に対しての改善要望を捉えることとしたので修正なし

The image shows a survey form with several sections. Red dashed boxes highlight specific questions and their corresponding options. Green boxes highlight other sections of the form. The questions are in Japanese and relate to transportation needs and survey methodology.

●設問の目的

- ・休日の基本行動と休日における交通環境改善ニーズの把握

●施策イメージ

- ・交通結節点や歩行者自転車空間のバリアフリー化 など

(2)調査票の検討

④補完調査 スクリーンライン調査(断面自動車交通量実査)

- パーソントリップ調査結果の精度向上に向けて、対象圏域を横断する河川の切断線（スクリーンライン）の通過交通量を観測

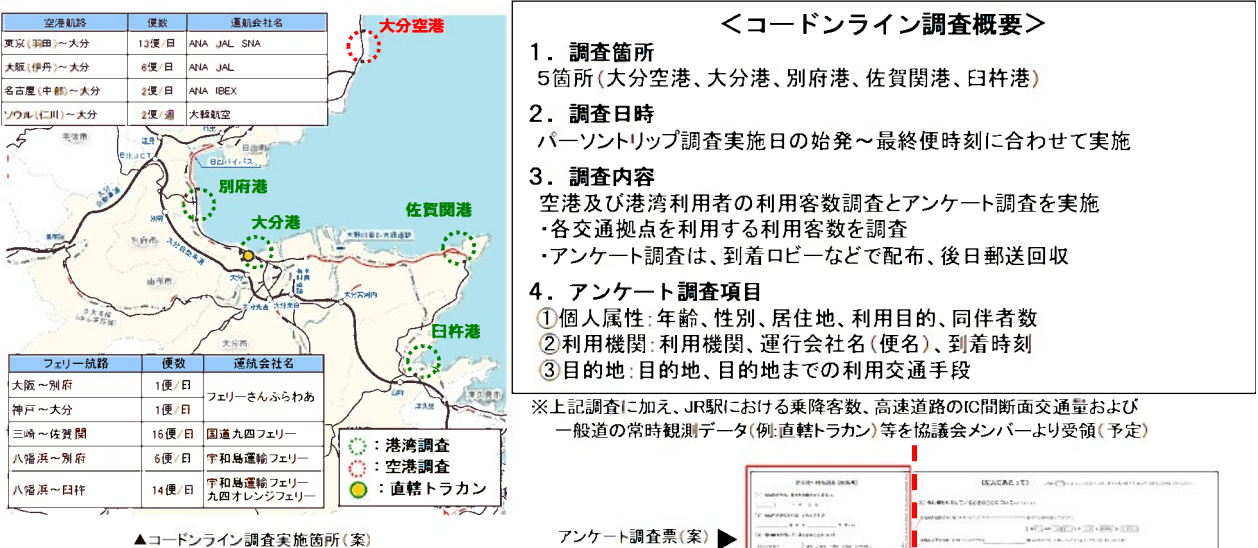


28

(2)調査票の検討

④補完調査 コードンライン調査(空港・港湾利用者調査)

- 対象圏域外からの出入交通量を把握するため、空港や各港湾にて利用客数などの調査（コードンライン調査）を実施



○記入面のみを切り離し、投函（裏面はPT事務局への宛名面）

アンケート調査票(案)

記入面

記入時の留意事項

29

3. 広報体系について

(1) 広報体系の検討

① 広報の必要性

● 広報の基本方針

- ・ 広報の「目標」や「対象者」、「調査の進捗段階」に応じて、適切な広報ツール（媒体）を選定
- ・ 県民に必要な情報が効果的・効率的に届くように、多様な広報ツールを有効活用

● 広報の目標と対象者

広報の目標		対象者
目標1：パーソントリップ調査票の回収率向上	調査の意義、実施機関、調査内容、手順などを明確にし、 <u>調査拒否や不信感による問合せ等の軽減、調査票の回収率向上を図る</u>	調査対象者
目標2：都市交通に対する関心の向上	検討内容や進捗状況、結果などを提供し、都市交通の問題や施策に対する関心を深める	都市圏住民
目標3：総合都市交通調査や施策実現に向けた協力要請	都市圏住民が調査対象に選定された場合の理解や協力を要請し、都市交通施策の早期実現を進めていく上で各段階に応じた情報提供を行う	都市圏住民

30

(1) 広報体系の検討

② 広報体系

- ・ 広報すべき目標範囲とコストから、広報ツールを整理



31

(1) 広報体系の検討

③ 広報スケジュール(案)

- ・ 調査の進捗段階に応じた的確な広報活動が重要
- ・ 多様なターゲット層に応じたコストパフォーマンスの高い広報計画を検討

実施スケジュール	H24年度				H25年度								H26年度							
	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	7	10	1
実施目的	認知				実施準備 周知				直前 共感		実施 理解		事後 お礼				情報開示・提供			
①リーフレット	素案作成				制作				説明会・公共施設等で配布											
②横断歩道横断幕									素案作成 主要幹線道路で実施											
③ポスター掲示等	交通事業者への協力要				調査素材・素案作成				公共施設・駅等で掲示											
④HP	委員会等の開催情報								調査への協力依頼				結果の情報提供・データベースの公開							
⑤ラッピングバス	交通事業者への協力要				調査素材作成・制作				運行											
⑥新聞・雑誌広告									1回目 2回目											
⑦県報・市報・タウン誌	広報担当部局と調整				素案作成				掲載											
⑧TV・ラジオ	広報担当部局と調整								期間中随時											
⑨主要企業や自治会への説明会	事前調査を実施								必要に応じて実施											
⑩シンポジウム																	成果報告			

各団体から御協力の申出を頂いており、
条件など詳細は、今後個別に協議予定

(2) 広報ツールのイメージ

- ・ 調査概要、調査の目的、調査方法を示し、各施設における配布や地元説明会等で利用

平成 25 年 大分都市圏
パーソントリップ調査
皆さんの1日の動きを教えてください！

調査期間
平成 25 年
〇～〇月

よろしくお願いします

本調査は、大分都市圏の約30万世帯の中から無作為に抽出した方を対象に実施します。対象世帯の方には、〇月までに調査票を郵送させていただきますので、調査票の回答記入のご協力をお願いします。

皆さんの1日の動きについて詳しくお伺いし、
快適で住みやすい将来のまちづくりに活かしていきます。

パーソントリップ調査って何？
ある1日に外出されたかどうか、また、外出された場合、「いつ」「どこに」「どのような交通手段で」異動されたかなどについて、お伺いするものです。

自宅 7:30 会社 9:00
千夜 徒歩(5分) バス(20分) 鉄道(5分) 徒歩(10分)

- ・ どのような人がどこからどこへ移動しているの？
- ・ いつ、どんな目的でどのような交通手段を利用しているの？

大分都市圏での動きを明らかにします。

調査の結果はどのように活用されるの？
パーソントリップ調査で得られた結果は、総合的な都市交通計画の策定といった交通計画分野だけでなく、防災・地域振興・福祉・環境分野等の様々な関連計画にも活用されます。

具体的な都市交通計画のイメージ

- 快適な歩行者空間
- 安全な自転車ネットワーク

どこで、どのように調査されるの？

調査対象者と調査範囲
本調査は、大分内帯（大分市、別府市、臼杵市、豊後大野市、由布市、日出町）の全市1部にお住まいの約30万世帯の中から、無作為に選ばれた方々以上の方を対象とします。調査対象者の方には〇月までに調査票をご自宅に郵送します。

回答方法
調査対象者の方は、郵送で調査票が届きます。同封の調査票の封筒に従ってご記入いただき、調査実施本部へご返送ください。ご不明な点がございましたら調査実施本部までご連絡ください。

個人情報の取扱い
調査票には、ご住所や郵便番号等を記入いただく必要がありますが、これらの個人情報は一切は棄けます。第三者への転売もいたしません。ご記入いただいた調査票は、原則として調査結果ごとの後1年間の保存期間を経過後、真正をもって廃棄します。

▲ 調査対象圏域(予定)

(2) 広報ツールのイメージ(熊本県事例)

・ 調査対象者への広報を充実させ、回収率の向上を企図

① お願いハガキ

熊本都市圏 パーソントリップ調査
平成24年 10月～11月

パーソントリップ調査へのご協力をお願い
熊本県では、熊本都市圏(5市6町1村)を対象に本年10月から11月にかけてパーソントリップ調査(交通実態調査)を関係市町村と共同で実施します。

この調査は、日頃の生活の中で、いつ、どこに、何の目的で、どのような交通手段で移動したかを把握するものです。

調査結果は、少子高齢化などの社会情勢の変化を踏まえた将来の交通のあり方を検討する貴重なデータとなります。

調査は、熊本都市圏にお住まいの約12万世帯を対象に行われますが、このたび、世帯を無作為に抽出していただいたこと、お気づきの点もご意見にお伺いすることになりました。

つきましては、本ハガキの到着から約2週間後にアンケート調査票が郵送されますので、調査の郵送をご確認の上、ご協力をお願いします。つきよしくお願い申し上げます。平成24年9月

熊本県土木部都市計画課
熊本市、あお市、宇土市、宇城市、ひまち、大津町、菊池町、湯浅町、湯前町、湯前町、湯前町、湯前町

② 知事・市長(熊本市)の顔写真・サイン入り依頼状

熊本都市圏パーソントリップ調査へのご協力をお願い



日頃から、熊本県政並びに熊本市政に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、熊本県、熊本市では「熊本都市圏総合交通計画協議会」を設立し、学識経験者、国、関係市町村等と共同で、

少子高齢化などの社会情勢の変化を踏まえた将来の交通のあり方について検討を始めました。

今回、熊本市を含む5市6町1村(熊本都市圏)にお住まいの方から無作為に抽出した約12万世帯の方(世帯を構成する満5歳以上の全ての方)を対象に日頃の交通実態をお尋ねすることといたしました。

調査結果は、今後の道路整備や鉄道・バスなどの公共交通のあり方、また自転車・歩行者の安全性の確保など、将来のまちづくりや交通計画を検討する貴重なデータとして活用してまいります。

つきましては、ご多用のところ誠に恐縮ではございますが、この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた内容は、この目的以外には使用せず、統計的に処理し個人が特定されるようなことはございません。

また、調査票については調査終了後、県と市が責任を持って処分いたしますので、ご安心ください。

平成24年10月
熊本県知事 蒲岡郁夫 熊本市長 幸山政史

③ お礼(兼督促)ハガキ

熊本都市圏パーソントリップ調査 ご協力へのお礼

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
適日、郵便にてお送りさせていただきました熊本都市圏パーソントリップ調査にご協力いただきありがとうございますことございます。

ご返信いただきました内容は、将来のまちづくりや交通のあり方を検討するために使用させていただきます。
皆様方には、お手数をありがとうございました。本状をもってお礼にかえさせていただきます。

なお、まだご返信いただけていない方におかれましては、お忙しい中、誠に申し訳ありませんが、調査へのご理解をいただいたこと、是非ご返信くださいますようお願い申し上げます。調査日(調査のご説明)に反響と同日付日であり、今週の日曜日をご記入いただいても構いません。個人票には、変更した調査日をご記入ください。

平成24年10月
熊本県土木部都市計画課
熊本市、あお市、宇土市、宇城市、ひまち、大津町、菊池町、湯浅町、湯前町、湯前町、湯前町、湯前町

ご不明な点などのお問合せにつきましては、下記までお願いいたします。

熊本都市圏総合交通計画協議会 調査実施本部
フリーダイヤル: 0120-706-060
(午前9時～午後6時、日・祝日を除く)